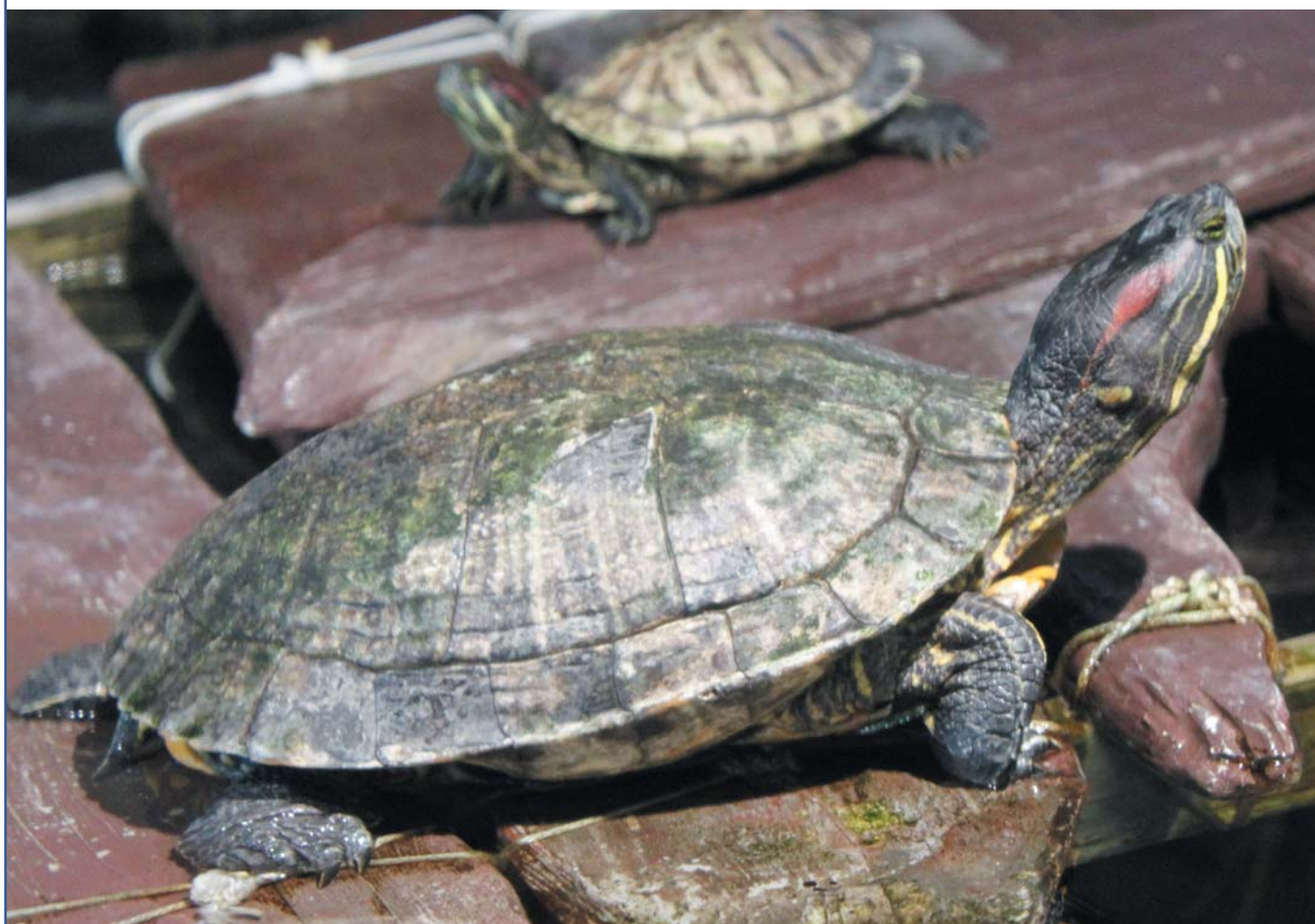


A・MUSEUM

vol.87
[2016.6.15]



ミュージアムパーク
茨城県自然博物館



アカミミガメの成体

(撮影:大森教弘)



アカミミガメの幼体

撮影:柄澤保彦

外来種を考える

「ミドリガメ」は知っていても、「アカミミガメ」の名前を知らない人は多いかもしれません。かつて縁日などで大量に売られていたミドリガメというカメの多くは、アカミミガメというアメリカ原産のカメの幼体です。幼体は3cmほどですが、成体は30cmほどにもなり、寿命も40年ほどといわれています。ペットとして飼いきれなくなった人が野外にアカミミガメを放す行為が多く行われ、在来のカメに影響を与えているといわれています。いわゆる外来種問題です。「可愛いと飼いはじめた生きものは最後まで面倒をみる」それがされなかったために、いまや自然の中の厄介者とされています。

10月に開催する外来種をテーマにした企画展は、みなさんと外来種について考える機会にしたいと考えています。(資料課 中川裕喜)

第66回
企画展

モンゴル・ステップ・大草原 -花と羊と遊牧民-

The Nature and Human Life of Eurasian Steppe

ユーラシア大陸の中央部、中国東北部からハンガリーに至る東西1万 km にわたる草原を「ステップ」とよびます。ほとんど木の影さえない開けた草原。ステップは、一本の帯のように果てしなくつながる草の海のようなのです。

草原の民は、この広大なステップで羊や牛などの家畜を飼う遊牧生活を営んできました。ステップは手つかずの自然ではなく、自然と人間の共同作業によってつくられた生態系です。遊牧民は、この土地で家畜を放牧する場合、どのくらいの数であれば草原を荒廃させることはないか経験的に知っていました。そして、衣食住に関するすべてのものが家畜とともにあり、厳

寒の冬でも家畜の糞さえあれば食事の火と十分な暖を取ることができます。

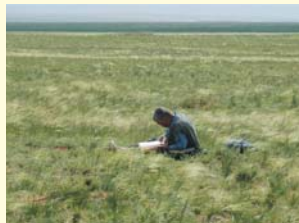
しかし、このステップにも、過放牧による草原の砂漠化などいろいろな問題が起こりつつあります。

この企画展では、モンゴルのステップを中心に、草原をつくる植物とそこに生きる野生動物、そしてその大草原を舞台に織りなす家畜と人間の営みを紹介します。さらに、現在起こりつつある草原の危機と草原を守る取り組みも合わせて紹介します。

さあ、みなさんもいっしょに、大草原の旅にでかけましょう。
(企画課 小幡和男)

展示構成

- 草原の自然
 - ・草原の花
 - ・草原の野生動物
 - ・草原の家畜
- ステップ研究最前線
- 草原と人
 - ・遊牧民の生活
 - ・祭りと伝統文化
- 草原の未来



草原をつくる植物スティバ



草原に咲くエーデルワイス



草原の野生動物 タルバガン



羊の放牧



遊牧民の移動住居 ゲル



遊牧民のおもてなし

会 期 **2016年7月9日(土)**
～2016年9月19日(月・祝)

7月9日(土)は午後1時からの公開となります。

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

休 館 日 毎週月曜日

※7月18日(月)、9月19日(月)は開館し、翌日が休館となります。

※8月15日(月)は開館します。

●記念講演会 騎馬民族の心 —モンゴル遊牧社会の価値観—

モンゴルの遊牧民の暮らしと自然とのかわりを紹介します。

日 時：2016年7月9日(土) 13:30～15:00

講 師：鯉淵信一氏 (亜細亜大学名誉教授)

場 所：博物館内

対 象：小学生以上 (小学生は保護者同伴)

定 員：300名 (事前申込み・先着順)

●記念イベント モンゴルフェスティバル—相撲と馬頭琴—

★モンゴルの祭り・ナーダムを体験しよう。

モンゴル相撲、弓射、競馬の実演と競技について紹介します。

日 時：2016年7月30日(土)、31日(日) 各日11:00～15:00

協 力：モンゴルブフクラブ、大和ホースパークほか

対 象：どなたでも

場 所：博物館野外

定 員：当日自由参加 (特に人数の制限はありません)

★モンゴルコンサート

モンゴルの伝統音楽(馬頭琴・ホーミー・オルティンドー)のコンサートです。

日 時：2016年7月30日(土) 18:00～19:00

出 演：ドルギオン氏、オットホンバイラ氏

場 所：博物館内

対 象：小学生以上 (小学生は保護者同伴)

定 員：150名 (事前申込み・先着順)

●記念シンポジウム ステップ研究最前線

ユーラシアステップに関する最新の研究を第一線の研究者が紹介します。

日 時：2016年8月28日(日) 13:30～15:30

講 師：田村憲司氏 (筑波大学教授) ほか

場 所：博物館内

対 象：小学生以上 (小学生は保護者同伴)

定 員：30名 (事前申込み・先着順)

来館者アンケート①

博物館の広聴活動 1

当館では来館者の意識と動向を調査し、その結果を博物館運営に反映させるため、来館者へのアンケート調査、博物館モニターからの意見聴取、ご意見承り箱の設置などの広聴活動を実施しています。その活動について、シリーズで紹介します。

第1回は来館者アンケートについてです。来館者アンケートは、開館年の1994年12月から現在まで、ほぼ同様の方法により実施しています。調査方法は、記入式のアンケート用紙を博物館1階と2階の案内および企画展示室出口で来館者に配布し、回収箱で回収する方法です。調査時期は企画展の会期に合わせて年3～4回、1回あたり300～500名を対象に実施しています。開館から現在までの回答者数は3万人を超えました。以下、おもな調査項目の動向について報告します。

○来館者の居住地

1996年度以降、茨城県内の来館者がほぼ5割程度で推移しています。そして、本県に隣接する千葉県と埼玉県からの来館者が、それぞれ15%から20%を占め、さらに東京都、栃木県、神奈川県と続いています。県外来館者が約半数を占めるのは、当館が茨城県南西部の千葉県との県境付近に位置しており、千葉県、埼玉県、東京都など近隣の地域が、茨城県の県北や県央、




アンケートスペース

鹿行地域より近いことが大きな要因であると考えられます。また、当館に近い千葉県と埼玉県の学校に広報活動を行っていることもその要因と考えられます。

○来館の情報源

来館が「初めて」の回答者を対象に、当館の存在をどのような情報から知ったのかを聞いた結果をみると、開館以来21年間を通して「人から聞いた」が一番多くなっています。ここ数年、割合としては減少傾向にありますが、「口コミ」がどの時期においても最も多く、重要な情報源になっています。2003年から選択肢に加えた「インターネット」は、年により変動はみられますが、情報源としての順位は「人から聞いた」に続いてほぼ第2位となっています。近年のICT化時代に「インターネット」の情報源としての重要性はますます高くなっており、2015年については、「口コミ」とほぼ同程度の割合となっています。

次回のA・ミュージアムでも引き続き、「来館回数」、「再来館する理由」など来館者アンケートの分析についてご報告します。 (企画課 沼尻耕一郎)

アンケートのお願い  ミュージアムパーク茨城県自然博物館

本日はご来館いただきまして誠にありがとうございます。
今後の博物館運営に生かしていきたいと存じますので、次の項目につきまして回答をお願いいたします。

Q1 入館時間と退館(予定)時間を教えてください。
【 】月【 】日 → 入館:【 】時【 】分～退館(予定):【 】時【 】分

Q2 あなた自身についておうかがいします。
①お住まいの都道府県は?
1.茨城 2.栃木 3.群馬 4.埼玉 5.千葉 6.東京 7.神奈川 8.その他【 】
②年齢は?
1.小学生 2.中学生 3.高校生 4.18～30才 5.31～40才
6.41～50才 7.51～64才 8.65～69才 9.70才以上

Q3 一緒に来られた方は、どのような関係ですか。
1.家族・親せき 2.友人・仲間 3.カップル(夫婦を含む) 4.学校・団体 5.その他【 】

Q4 当館への来館は何回ですか。
1.初めて 2.2回～4回 3.5回～9回 4.10回以上

Q5 Q4で「1.初めて」と回答した方にお聞きします。
①当館を何で知りましたか。
1.テレビ・ラジオ等 2.新聞・雑誌 3.ポスター・チラシ 4.管公庁の施設

アンケート用紙

飛ぶ宝石

翡翠という漢字から何を連想しますか。深緑色の宝石を思い浮かべる方が多いと思いますが、鳥のカワセミも同じ漢字で表記します。「飛ぶ宝石」とも称される翡翠の羽は鮮やかな青色です。宝石の翡翠はカワセミにちなんで名付けられました。

カワセミは、水面の数十cm上から狙いを定め、水中に急降下して飛び込み魚を捕えます。カワセミは、垂直な土手に巣をつくり、奥行は50cmから90cmほどにもなり、く

ちばしと足を使って掘り進めます。オスとメスが共同で巣づくりをし、子育ても協力して行います。第3展示室の水の生きものコーナーでは、カワセミとその巣をみるることができます。

博物館の野外では、生きているカワセミに会うことができます。カワセミは、自転車のブレーキ音に近い鳴き声で鳴きます。双眼鏡を貸し出しておりますので、目と耳を頼りに、飛ぶ宝石を探しにいけません。

小さな発見—ミュージアムコンパニオン—

(ミュージアムコンパニオン 長塚美穂)



巣穴(左上)と小魚を運ぶカワセミ

「新旧館長紹介 インタビュー」

インタビューー 企画課 小幡和男

ミュージアムパーク茨城県自然博物館の館長が4月1日に替わりました。菅谷前館長（同日付で名誉館長に就任）から横山新館長にバトンが渡されました。両氏のインタビューをここに掲載します。



(左)横山館長 (右)菅谷名誉館長

ー自然博物館の11年を振り返って

（菅谷名誉館長）数多くの思い出がありますが、今回の熊本地震の報に接したとき、その心配とともに東日本大震災での博物館の被災体験が強く思い出されました。被災により休館を余儀なくされましたが、職員の冷静沈着な行動により、1人の負傷者も出さず来館者を避難させることができ、集客施設としての責任を果たすことができました。自宅が被災した職員が館の復旧に全力を尽くす姿が思い出されます。

嬉しい思い出としては、常陸宮殿下ご臨席の下、各界のみなさまとともに開館20周年をお祝いすることができました。先人が歩まれた歴史を大切にしつつ、未来へ向けての有意義な記念式典となりました。

最後に内緒の話です。来館者数があまり期待できないと思いながら開催について渋々了解した企画展が大ヒットとなり、その後もヒットの連続で文科省や博物館界でも注目を集めました。大変嬉しかったのですが、自分のセンスの悪さを嘆き「時代遅れ」の歌を聴きながら1人さみしく飲んで夜もありました。

楽しさと失敗にあげくれた館長生活でしたが、人生最後の勤めが茨城県自然博物館であったことは大変幸福でした。

ー博物館長として大切なこと

（菅谷名誉館長）館長の役割は館の使命と目標を達成することにあります。

博物館の組織も人の体と同じように全体のバランス（総体の和）が大切ですが財政の厳しい中にあるは職員がその能力を十分に発揮できるよう特に考える必要が

あります。館長は広い視野をもって社会の経済動向をみながら組織運営を心がけ、職員のモチベーションを喚起し目標に向かって一丸となって進む職場風土を築くことです。組織は人といわれてます。人材育成を図りながら、そして来館者に満足度の高い事業を展開していくことが大切だと思います。

ー横山館長に期待するもの

（菅谷名誉館長）横山館長は国立科学博物館の要職を歴任し、博物館に関わる豊富な知識と経験をもっており、大いに期待をいたしております。温厚篤実で明るいご性格ですのですぐに多くのみなさまから信頼と親しみを寄せられることと思います。健康に留意され、その手腕を存分に発揮され新たな時代を築かれることを願っております。

ーこれからの人生

（菅谷名誉館長）仕事を終えたら頭の中にあれもこれもしたいと描いていましたが、現在はなにが忙しい日々を送っています。一段落したら持病の腰痛症の改善のため、温泉地での長期療養を計画しています。1人では飽きてすぐに家へ帰って来ると妻がいますが（笑）好きな魚釣りでもしながらのんびりしたいと考えています。

名誉館長の称号をいただきましたので、大いに博物館の宣伝に努めたいと思います。今後は称号を汚すことなく身を慎み、清く正しい生活を送るべく決意を新たにしたいところです。

ー読者へのメッセージ

（菅谷名誉館長）読者のみなさまに御礼のご挨拶とともに最新の情報満載のA・MUSEUMを今後ともご愛読

いただき、博物館へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

菅谷館長、長い間の激務お疲れさまでした。しばしの間、釣りでも楽しみながらゆっくり疲れを癒やしていただきたいところではありますが、今後も名誉館長として私たち博物館の面倒を末長くみていただくこととなります。今後ともよろしく願っています。

ー今までの仕事について

(横山館長) 国立科学博物館で、30年以上にわたり岩石の研究に専念してきました。身近に転がっている石ころや崖を作っている石には、一般の人はあまり興味がわかないものです。国立科学博物館では、少しでも一般に興味があくような特別展「黄金の国ジパング展」、「翡翠展」、「南極展」、「地震展」や「石の世界と宮沢賢治展」などを企画してきました。岩石の研究が、人類学、考古学、古生物学だけでなく科学捜査関係にも大きな貢献になることも経験させてもらいました。

ー少年時代の思い出

(横山館長) 私は、岐阜県の山に囲まれた小さな村に生まれました。「ウサギ追いし」と歌い出す童謡「ふるさと」にあるような世界で育っています。集落総出で、竹をたいてウサギを追うといったことは、今や想像の世界でしょう。身近にある食べられるものは、ほぼ食べてきました。小さな集落であるため、周りとうまく付き合うことが現在に生かされているものと思っています。

ー菅谷館長からバトンタッチされ思うこと

(横山館長) 菅谷館長は、国立科学博物館の評価委員長で、私は菅谷館長の質問に答える立場にありました。委員長として菅谷館長はきわめて的確な判断をされ、会議を進めて来られました。菅谷館長がいた博物館に勤められるとは思っていませんでしたが、館長の職を受けたときには、人との関係を最重要視していく心構えでした。しかし、実際に館長になってみると、職員は多重の職務を割り当てられているにも関わらず、全員がチームワークよく働いていて、感心しました。これは今までの菅谷館長の人柄と努力によって活力のある職場がつくられたものと思います。

ー自然博物館をどんな博物館にしたいのか

(横山館長) 県の財政は厳しい状況にあると聞いております。そのような中でも、県からは恐竜展示、水系の保守や野外の歩道の更新などで大きな予算が博物館に配分されています。知事をはじめ多くの方が自然博物館を応援してくれている結果だと思っております。これに応えることが新館長としての職務であると思っております。収蔵庫の拡充など多くの問題がありますが、まずは、現在の職員と展示解説員およびボランティアの協力体制を強めることで、博物館を今以上に活性化していくつもりです。職員の負担を軽減するためにも、私自身が積極的に展示や行事に参加し、長年行ってきた事業の見直しを行い、収蔵庫内の整理もボランティアの協力を得ながら進めていこうと考えています。

ー読者へのメッセージ

(横山館長) 博物館には、毎年約40万人の来館者があり

ます。これも多くの来館者がリピーターとなり、見学したり、ともだちと遊んだりしていただける結果だと思っております。初年度では大きくは変化しないと思っておりますが、少しでも展示や事業を更新して、何度来館してもおもしろく、楽しく、新鮮な施設と思われるようにしたいと考えています。これからも応援よろしく願っています。

横山館長、慣れない職場でのスタートお疲れさまです。しかし、館長のバイタリティーにあふれた行動力の一端を何度もお見受けし、本当に頼もしい限りです。来館者のみなさまには、図書室近くにある「学芸員からこんにちは」コーナーの横山館長の紹介展示をご覧いただければと思います。

P/R/O/F/I/L/E



菅谷 博
すがや ひろし

経歴/1944年東京都生まれ。1968年日本獣医畜産大学獣医学科卒業。1968年東京都庁入庁。1995年多摩動物公園飼育課長。1999年上野動物園飼育課長。2000年同園園長。2004年9月東京動物園協会理事長。2005年6月第2代ミュージアムパーク茨城県自然博物館館長。2016年4月同館名誉館長に就任。日本動物愛護協会理事長、いばらき文化振興財団理事、東京都公園協会評議員等を歴任。新潟県トキ増殖技術現地検討会座長、環境省トキ飼育繁殖専門家会合座長、中央環境審議会臨時委員として広く環境保全に尽力。2009年環境保全功労者環境大臣表彰。
◆主な著書は、「動物園のデザイン」(共著)(INAX出版)。他に論文「動物園の機能と社会的役割」(日本獣医師会報)、「動物園と人と動物の感染症」(ワールドフォーカス)等。



横山 一己
よこやま かずみ

経歴/1950年岐阜県生まれ。1977年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、理学博士(東京大学)。ハワイ、ニュージーランドなどで研究員を歴任。1982年国立科学博物館で地学研究部研究員。2011年同館地学研究部部長。その後特任研究員、アドバイザーフェローなどの要職を歴任。特別展「ダイヤモンド展」、「地震展」、「翡翠展」、「黄金の国ジパング展」などで中心的役割を担う。2016年4月第3代ミュージアムパーク茨城県自然博物館館長に就任。
◆主な著書は、「地球の大常識」(監修)。「ゼミナール地球科学入門 よくわかるプレート・テクトニクス」。変成岩の要因に関する研究をアジア・オセアニア地域で行い、国際誌に論文を多数発表。人類学や考古学などでも多くの論文を発表。

本田尚子氏植物画コレクション

収蔵品紹介

2016年4月、守谷市在住の植物画家（ボタニカルアーティスト）の本田尚子さんから、博物館活動に役立てていただきたいということで、551点の植物画（ボタニカルアート）の寄贈がありました。

ボタニカルアートとは、「Botany」と「Art」が結びついた言葉で、直訳すると「植物学的な芸術」となり、植物画ともよばれています。植物をよく観察し、形や色や特色を写実的に、かつ芸術的な美しさをもって描く植物画は、18～19世紀のヨーロッパで発達しました。

本田さんは1980年代から植物画に取り組み、身近な野草やきのこを中心に精力的に作品を描いてこられました。これまで、国立科学博物館主催の植物画コンクールにおいて入選10回、うち、2004年には文部科学大臣賞を受賞されています。現在は日本植物画倶楽部、つくばボタニカルアート同好会に所属し、各地で植物画の講師も務められています。

当館との関わりは深く、2003年に当館で開催した特別企画展「アートが植物を救うー絶滅危惧種と植物画の世界ー」で作品を出品されるとともに、展示会の準備を手伝ってもらったことをきっかけに、その後も作品の展示やイベントの講師など、さまざまなご協力をいただいております。

ご寄贈いただいた作品は、これからもいろいろな機会に展示したり、当館の印刷物に掲載したりして、活用させていただきたいと思います。（資料課 宮本卓也）



トウモロコシ「ピーターコーン」
国立科学博物館主催
第20回植物画コンクール
一般の部
文部科学大臣賞受賞作品



寄贈作品を確認するようす

竹筒の束の正体は？

自然発見工房の軒下に竹筒が束になって下げられています。動物クイズ1番の問題にもあるので、ご存じの方も多いのではないのでしょうか？竹筒の束の正体はハチのトラップ、つまりハチをおびき寄せするための罠です。竹筒トラップには、借孔性（または管住性）ハチ類とよばれるグループがおびき寄せられます。

借孔性ハチ類は、自然の中にある小さな孔を、巣に利用して生活しています。慢性的な孔不足のため、竹やヨシの筒は、彼女たちの恰好の営巣場所となります。葦簣に営巣するハチを、見た人もいるでしょう。スズメバチやミツバチと大きく異なる点は、ハニカム状の巣をつくらず、筒の奥から順に育児室を設けることです。また、単独で生活していますから、スズメバチやミツバチのように集団で襲ってくることはありません。

借孔性ハチ類は、ベッコウバチ科、ドロバチ科、アナバチ科、ハキリバチ科などに属する、いろいろなハチが含まれます。おのずと種によって利用する竹筒の径が異なってきます。育児室を隔てる仕切りの材料は、泥を使うものや葉片を使うもの、オオハキリバチのよ

なるほど博物館

このコーナーは、自然に関するさまざまな情報を、わかりやすくお伝えするコーナーです。

うに樹脂を使うものなどさまざまです。そして、環境の違いでも営巣する種は変わってきますので、竹筒トラップで自然度の調査を行うことも可能でしょう。

これからは、借孔性ハチ類の営巣活動が活発な時期になります。竹やヨシの束をつるしてあげれば、ハチの住宅事情も改善されます。この夏は竹筒トラップを利用した昆虫観察に挑戦してみてください！博物館ホームページに資料がのっています。（資料課 久松正樹）



オオハキリバチが営巣するようす

（撮影：今井初太郎）

トピックス

○入館者950万人を達成!!

2016年5月2日(月)、当館の入館者が950万人に達しました。1994年11月の開館以来、21年と約6か月での達成です。

記念すべき950万人目のお客様となったのは、茨城県つくば市から来館された金井祐太さん(9歳)です。記念式典では、横山館長から950万人目の入館証明書が授与され、さらに小野寺茨城県教育長と助川博物館友の会会長から、恐竜パペットなどのミュージアムグッズやレストランのお食事券がプレゼントされました。祐太さんは、おじいさん、おばあさん、妹さんと家族4人で来館されました。「博物館に来るのは4回目です。自分が950万人目の入館者だと聞いて驚きました。」といった感想をいただきました。

当館は、これからも1000万人、2000万人と多くのお客様をお迎えし、みなさまにいつも楽しんでいただけるようなイベントや、新しい情報満載の企画展を開催していきたいと考えています。これからも博物館にご来館ください。(企画課 中里 賢)



入館者950万人達成の記念式典

○みえないところをリニューアル

第3展示室「茨城の水系」が新しくなりました。

多くの方が「どこが変わったの」とお思いでしょう。チラー(冷却装置)が新しくなりました。見た目には変化がありませんが、魚のためにはとても大切なリニューアルです。当館の水族館設備は老朽化が進んだため、昨年から少しずつ施設の更新を実施しています。チラーの交換は最初の工事です。

チラーの交換をしている間は、水槽の冷却ができなくなります。冷やさなければ、ポンプなどの排熱によって、水温はどんどん上昇してしまいます。これは、冷水性の上流の魚たちには大変危険なことです。展示を休止して魚を避難させて工事を実施することも考えましたが、「真冬なら大丈夫」と判断し、1月から工事を開始することにしました。それでも水温は20℃近くまで上昇してしまいます。飼育担当者たちは、準備室の暖房を切ってまで対応しました。そのような努

力の甲斐もあって、無事展示を維持したまま、2か月におよぶ工事を終えることができました。博物館には展示を変えないための努力もあることを知っていただければ幸いです。(資料課 土屋 勝)



バックヤードの水処理設備

○自然災害に関する特別展示を開催して

東日本震災の発生から5年の歳月が過ぎました。この巨大地震は、地震学の研究者の予測を超えて発生し、私たちの生活や世界観を大きく変えました。現在もまだ震災復興が進められています。当館では、この震災5年を機に、特別展示「あの衝撃の日から5年ー東日本大震災はなぜ起きたのかー」(会期：3月1日～4月10日)を開催しました。特別展示では、この5年間の研究で明らかになってきた巨大地震発生のしくみや過去に繰り返されてきた巨大津波、この5年間続いている大地の動きなどを中心に紹介しました。また、博物館と隣接する常総市で昨年9月に発生した、関東・東北豪雨による鬼怒川洪水災害についても、洪水堆積物の剥ぎ取り標本や写真などをもとに展示しました。今回はエントランスに入ってすぐの吹き抜け通路に展示したこともあり、多くの来館者にじっくり見ていただくことができました。

特別展示が終了して4日後には、震度7を2回記録した熊本地震が発生しました。このように最近は大きな自然災害が頻発し、来館者の地球科学への関心が高くなっています。(教育課 小池 渉)



特別展示を熱心に見る来館者

ベトナムで開催された国際シンポジウムへの参加



ベトナムで産出した化石の展示コーナー



エントランスで記念撮影（中央左からミン館長、プラテージ館長（フィレンツェ大学自然史博物館）、筆者、フン主任調査員）

3月にベトナムで開催された国際シンポジウムに参加してきました。このシンポジウムは、当館と事業連携に関する覚書を締結しているベトナム国立自然博物館が設立10周年を迎えたのを機に開催したものです。

シンポジウムでは2つの発表を行いました。ひとつは博物館学の研究で、「博物館における来館者の動向調査」をテーマにポスター発表を行いました。当館が実施している来館者調査の結果や、展示などの工夫とその成果について話しました。もうひとつは古生物学の研究で、「首の短い首長竜における歯の交換」をテーマに口頭発表を行いました。首長竜の食性や特殊化した骨や歯の形態などについて話しました。それぞれの発表において海外の研究者と議論を深めることができ、また海外の研究成果について情報を得ることもできて、有意義なシンポジウム参加となりました。

シンポジウムの翌日にはベトナム国立自然博物館の施設を案内していただきました。展示では、地球の歴史や生物の進化、ベトナムの自然についてのコーナー

があり、小規模ながら内容の濃い展示でした。この展示は一時的なもので、今年から大規模な展示施設および野生動物保護施設を建設し、2021年に本格オープンを迎える予定だそうです。見学のあと、今後の連携事業の進め方についてミーティングを行いました。当館との間で標本交換を定期的実施する計画や、将来的には共同研究を行うことなどについて話し合いました。

両博物館の今後の発展のため、まずは標本交換から実現していきたいと思います。（資料課 加藤太一）

編集後記

植物の生きた姿をそのまま詰めたような標本。次回の企画展で展示する標本の整理のお手伝いをさせていただきました。1つの標本が展示されるまでには、たくさんの時間と人が関わっていることを肌で感じました。今回は館長交代の節目を迎えた号でもあります。情報はもちろん、人の思いが詰まった今回のア・ミュージアムもたくさんの人の元に届くことを願います。

(S.M)

【交通案内】



＜車ご利用の場合＞

- 常磐自動車道谷和原ICから20分
 - 鉄道・バスご利用の場合
 - 東武アーバンパークライン(野田線)愛宕駅下車～茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車～「自然博物館入口」下車、徒歩10分
 - つくばエクスプレス、関東鉄道常総線守谷駅下車～関東鉄道バス「岩井/バスターミナル行き」乗車～「自然博物館入口」下車、徒歩5分
- ※事前に発車時刻等をご確認ください。



【開館時間】

9:30から17:00まで
(入館は16:30まで)
※ペット、遊具、テブル、椅子及びテント等のお持ち込みはご遠慮ください。

【入館料】

区分	本館・野外施設		野外施設のみ	年間パスポート
	企画展開催時	通常時		
一般	740円 (600円)	530円 (430円)	210円 (100円)	1,540円
高校・大学生	450円 (310円)	330円 (210円)	100円 (50円)	1,030円
小・中学生	140円 (70円)	100円 (50円)	50円 (30円)	310円

(注):()内は団体料金(20名以上)
未就学児・満70歳以上の方・障害者手帳をお持ちの方は入館無料です。
次の日は入館料が無料です。
●5月4日(みどりの日) ●6月5日(環境の日)
●11月13日(茨城県民の日) ●3月20日(春分の日)
●高校生以下の児童・生徒は毎週土曜日
(ただし、春・夏・冬休み期間を除きます。)

【休館日】

- 毎週月曜日
- ※6月20日(月)～6月25日(土)は館内整理のため、休館となります。
- ※7月18日(月)、9月19日(月)は開館し、翌日が休館となります。
- ※8月15日(月)は開館いたしません。

